一自今御成之節、降還り候樣成天氣に候はゞ、傘を手に持、御供可仕事、

一無心元程之天氣に候はゞ、御跡に傘爲持可申事、

但途中ニ而降出候節は、不及伺御目付世話致し、早く傘さゝせ可申事、

一晴天之節は、傘御成先江遣置可申事、

一御鷹野御成之節も、右可爲同前事、

右之通、向々江可被相達候、

四月

享保十二未年九月

一御成之節、雨天ニ而途中より傘差候時分、小十人御徒七八人程づゝ御跡へ下り、人別に傘持段段に代合可申事、頭は二代りに御跡へ下り傘持可申候、此外御先へ立候者共も、右ニ准じ可相心得候、尤何も御駕籠之邊ニ而は、中座可有之事、

但御同朋も二代りに可致事

享保十六亥年五月

一公方樣、大納言樣、御城中御成之節、雨降候はゞ、御供之面々、傘合羽被遊御免候、向後著用可仕候、

但江葉山御參詣之節は、只今迄之通たるべく候、

右之通、可被相觸候、

五月

傘製作

〔和漢三才圖會二十六服玩具〕傘○中略

按、繖、華蓋也、簦、卽笠有柄者甚賤、傘卽繖而禦雨甚侈、近世制得其中者也、竹骨上張紙微注荏油令紙不濕敗、俗曰唐傘、通用傘字、堺納屋助左衞門文祿三年自呂宋還來、獻土產傘、蠟燭各千挺、今傘制乃是也、攝州大坂堺